

## J18b すざく衛星による 1E1740.7–2942 の観測

東慶一、北本俊二、村上弘志 (立教大理)

1E1740.7–2942 は 1984 年に *Einstein* 衛星によって初めて観測された。1E1740.7–2942 は銀河中心付近にあり、511keV の電子 – 陽電子対消滅線や数秒角に伸びる電波ジェットなどが観測されており、代表的なマイクロクエーサーである。これまでの X 線の観測結果では、非常に強い吸収 ( $N_{\text{H}} \sim 10^{23} \text{ cm}^{-2}$ ) を受けたハードなベキ型 ( $\Gamma \sim 1.6$ ) スペクトルを示すことが報告されている。

すざく衛星は 1E1740.7–2942 を 2006 年 10 月 9 日と 2008 年 9 月 8 日に、それぞれ、40k 秒観測した。今回は、それぞれの XIS と HXD の観測データを用い、0.6keV から 70keV のエネルギースペクトルを解析した。ほぼ 2 年を隔てた 2 回の観測で、2008 年の Flux は 2006 年に比べ 10% 程度低くなっていることがわかった。しかしながら、エネルギースペクトルはどちらも、非常に強い吸収 ( $N_{\text{H}} \sim (1.4-1.6) \times 10^{23} \text{ cm}^{-2}$ ) を受けた、ベキ型の関数 ( $\Gamma \sim 1.6$ ) で表すことができ、あまり変化がない事が分かった。また、どちらの観測でも中性鉄による 7.1keV での吸収端を顕著に検出する事ができ、低エネルギー側の吸収量と、中性鉄の吸収量を比較する事ができた。